

高校生向けのスペイン語テキストについて

-言語と文化を学ぶ複合型教材の開発-

青砥清一

(神田外語大学)

A Study on Spanish Textbooks for High School Students

-A Development of Hybrid Teaching Materials to Learn Language and Culture-

Seiichi Aoto

(Kanda University of International Studies)

はじめに

近年わが国では高等学校の国際化とともに、高校生のスペイン語学習者が増加している。しかし、高校生向けのスペイン語テキストおよびスペイン語圏文化に関する教材の研究開発が進んでいないため、学習者と教材との間の不適合が生じている。本稿は、はじめに国内外の高等学校等におけるスペイン語教育事情を考察した後、わが国の高等学校におけるスペイン語クラスの実情および学習指導要領等の基準に照らしたテキスト開発の方向性について提議する。

1. 高等学校におけるスペイン語教育事情

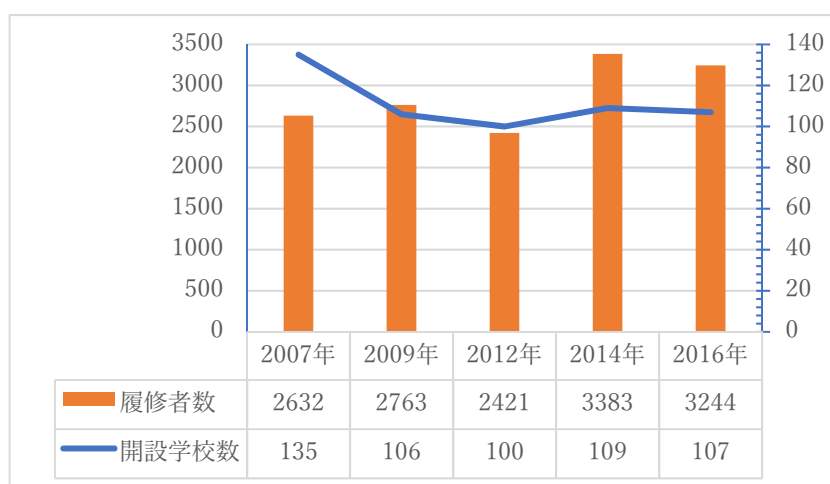
わが国におけるスペイン語教育は、主に大学（専攻外国語と第二外国語）および民間の語学学校において展開してきたが、この10年来、高等学校において学習者の増加がみられる。文部科学省の調査によると、2016年5月時点でスペイン語の科目を開設している高等学校は、全国で107校（国公立82, 私立25）を数え、中国語、韓国・朝鮮語、フランス語に次ぐ第4位を占める。履修者は3,244人で第5位であるが、第4位のドイツ語にほぼ比肩する。すでに多くの大学の第二外国語科目においてはスペイン語の履修者数がフランス語・ドイツ語を抜き、中国語と最上位を競っている状況がみられるが、今後は高等学校においても開講学校数が増えれば同様の

現象が起こり得る。

表 1 高等学校における英語以外の外国語科目開設学校数と履修者数

順位	言語名	開設学校数	履修者数
1	中国語	504	17,210
2	韓国・朝鮮語	328	11,137
3	フランス語	209	7,912
4	ドイツ語	102	3,542
5	スペイン語	107	3,244
6	ロシア語	25	738
7	イタリア語	13	295
8	ポルトガル語	9	203

下のグラフは、過去 10 年間におけるスペイン語科目開設学校数と履修者数の推移である。開設学校数は 2007 年の 135 校から 2016 年の 107 校に減少したものの、履修者数は 2014 年に 3 千人を超え、2007 年からこの 10 年で 29%の増加をみた。



(文部科学省『高等学校等における国際交流等の状況について』をもとに作成)

図 1 スペイン語科目を開設している高等学校数と履修者数

スペイン語は、世界で 4 億 7 千万を超える母語話者人口を有するため、国際化を進める高等学校において中国語とともに国際語としての認識が広まりつつあり、また、イベロアメリカの文化的多様性、多彩な世界遺産、ならびにサッカー・野球等のスポーツに対する生徒の関心も高いので、今後とも高等学校における学習者数の増加が期待される。

さりとて、わが国においては、「外国語＝英語」「国際化＝英語学習」という固定観念が根強く、英語以外の外国語への関心が未だ低いと言わざるを得ない。就中、初等・中等教育および職業訓練において英語以外の外国語教育の普及が国際的にみてかなり遅れている。セルバンテス文化センターのレポート（Instituto Cervantes 2017）によると、日本のスペイン語学習者は 6 万人（世界第 20 位、アジア第 1 位）と推定される（表 2）が、前掲の高校生 3,244 人に中学生 161 人（文部科学省 2017）を加えても、スペイン語学習者全体に占める割合は、わずか 6%という低い値となる。

表 2 世界のスペイン語学習者数

		初等・中等教育、職業訓練	大学教育	その他	セルバンテス文化センター	総計
1	アメリカ	4,058,000	790,756	—	3,809	7,820,000
2	ブラジル	4,467,698	—	—	5,589	6,120,000
19	ポーランド	59,878	17,600	—	1,649	77,478
20	日本	—	—	—	869	60,000
21	オランダ	24,200	16,000	15,232	533	55,432
30	フィリピン	10,100	14,000	9,500	2,881	33,600
31	中国	8,874	22,280	—	3,166	31,154

（セルバンテス文化センター『EL ESPAÑOL: UNA LENGUA VIVA Informe 2017』をもとに作成）

海外では、初等・中等教育および職業訓練の領域においてスペイン語学習者が最も多い。第 1 位アメリカと第 2 位ブラジルは、それぞれ全体で 782 万人、612 万人の学習者人口を有するが、当該領域が両国とも 400 万を超え、全体の 52%と 73%を占めている。ヒスパニック人口の多いアメリカでは第二言語として、同じラテンメ

リカのブラジルではポルトガル語の姉妹語として、それぞれスペイン語が初等・中等教育で学ばれているので、この数値は当然の結果ともいえるが、別の要因としては、国際ビジネスにおけるスペイン語需要の高まりが挙げられる。（わが国も世界の潮流に乗り遅れず、ラテンアメリカの経済成長を取り込むため、職業訓練としてのスペイン語教育の重要性が見直されるべきである。）

同表において日本の前後に位置する国々と比較すると、第 19 位のポーランドは、初等・中等教育および職業訓練におけるスペイン語学習者数が 59,878 人で全体の 77%を占める。第 21 位のオランダも 24,200 人で全体の 47%を構成し、半数近くを占めている。アジアのなかで日本に次ぐ第 30 位フィリピンと第 31 位中国においても、おのおの 10,100 人（30%）と 8,874 人（28%）を記録する。これらの国々では、わが国と同様にスペイン語を第三言語として学ぶ人が多いが、初等・中等教育および職業訓練におけるスペイン語学習者とその割合がわが国のそれを大きく上回る。

言語を含めた文化的多様性の尊重は、国際社会において最も基本的な人権項目の一つである。国際人権規約を批准し、「ユネスコ文化的多様性に関する世界宣言¹」に賛成したわが国は、公教育、とりわけ人格形成に相当の影響をもたらす初等・中等教育機関において多言語教育を拡充すべきである。そうなれば、日本国憲法の理念である平和主義および国際協調主義の実現にも大いに資することとなる²。

2. 高等学校におけるスペイン語クラス

ひとくちにスペイン語科目を開設しているといっても、教育内容、レベル設定、

¹ 「ユネスコ文化的多様性に関する世界宣言実施のための行動計画要旨（仮訳）」（文部科学省、日本ユネスコ国内委員会 2017）において言語的多様性の保護および多言語教育に関連する項目として以下の 3 つを挙げる。

- ・ 人類の言語遺産を保護し、可能な限り多くの種類の言語による表現、創造、普及のための支援を行う。
- ・ 母国語を尊重しつつ、教育のあらゆる段階において、可能なかぎり言語の多様性を奨励し、低年齢からの複数の言語学習を促進する。
- ・ 教育による文化的多様性の持つ価値への理解促進を図る。そのためカリキュラム作成と教員養成を改善する。

² 日本言語政策学会（2014）は、「人格形成と恒久平和に資する多言語教育」という理念の下、英語に加えて「第 2 の外国語」を必修選択科目と位置づけ、全ての高校生が「英語＋その他一つの外国語」を学べる環境を保障するよう文部科学省に対して提言している。

授業形態は学校によってさまざまである。国際コースや外国語コースにおける選択または必修の「第二外国語科目」として週二回程度の授業を実施しているところがある一方、「総合的な学習の時間」における国際理解の一環として週一回、文化紹介を織り交ぜながら平易な日常会話を中心に扱っているところもある。(尤も、前者であっても生徒の学習意欲を高めるため、文法指導に終始せず文化紹介も適宜採り入れているようである。)

慶応義塾志木高等学校の『ことばと文化³』は、週一回の授業のなかで前半に文法と会話を、後半にスペイン語圏の文化と歴史を学ぶ。また、座学にとどまらず、実際にメキシコ料理のタコスをつくるなど、スペイン語圏の文化に触れる活動も行なっている。このような活動を通じて生徒はスペイン語圏の文化をより身近に感じることであろう。同様に、大阪府立泉北高等学校および神戸市立葦合高等学校の第二外国語クラスにおいても、言語のみならず文化を同時に学ぶ。

高等学校におけるスペイン語クラスでは、高校生用に刊行されているテキストが次節に掲げる一つしかないため、それ以外の既刊テキストを指定する場合、大学生もしくは一般向けテキストまたはスペインやアメリカなどで発行された洋書を採用せざるを得ない。しかし、これらのテキストは、当然の事ながら本国の学習指導要領に準拠しておらず、大半のものが直説法ないし接続法現在までの修得を目指した文法中心の構成であるため、高等学校の第二外国語科目には学習範囲が広く、殊に総合学習には不向きである。スペインにおいて出版されている外国語としてのスペイン語 (ELE) の洋書テキストは、文化的コンテンツが比較的豊富であるものの、全編スペイン語で書かれているため、かなり難しいと感じる高校生は少なくなろう。

テキスト選定の困難さについては、後藤ほか (2010) 等において指摘されてきたところではあるが、すでに履修者が全国で 3 千人を超えている現状に鑑みれば、日本語で書かれた高校生向けテキストのバリエーションが増えてよい。

3. 高校生向けスペイン語教材の開発に向けて

3.1 既刊のスペイン語テキスト

³ 総合学習として、スペイン語を含めた 24 の言語を学ぶことができる。受験や就職に結びつけるという発想から一線を画し、「言語に優劣はない」ことを自然に学ぶという理念を掲げる。

寸田（2014）が論じているように、高校生向けのテキストにおいては、学習指導要領に準じてコミュニケーション能力の向上が重視され、また、大学生向けテキストにみられる飲酒などに関する語彙や表現は高校生にとって不要、不適切である。アスティゲダ（2012）は、大学生向けテキストでは生徒が関心を失ったり学習についていけなくなったりする場合があるとも指摘する。

くわえて、前述したとおり、授業時間数の差異も大きい。大学の第二外国語向けテキストは通常、1コマ90分 x 週2回 x 年30回程度の授業時間数のなかで消化するように設計されているので、1コマ50分 x 週1~2回 x 年35回程度からなる高等学校の第二外国語クラスの授業時間数では、1冊のテキストを終えるのに大学の二倍以上の年月を要するとみてよいであろう。これらの理由から、高等学校特有の事情に対応したテキストが開発されて然るべきである。

筆者の把握する限り、現時点で高校生向けのスペイン語テキストとして刊行されているものは、唯一『高校生のためのスペイン語』のみである。同書は、高等学校の授業時間や授業年数（2年間を想定）に配慮して作成されている。大学生向けのテキストとは異なった文法シラバスを採用しているのも特長であり、高校生がよく用いるフレーズを早い段階から導入する⁴。もちろん会話の登場人物は高校生に設定されているので、大学生向けテキストを使用する場合と異なり、学習者と会話内容とのギャップもない。

各課は Can do 方式（「スペイン語で注文してみよう！」「好きなものについて話そう！」等）により構成され、学習指導要領に対応し、コミュニケーション能力の育成に重点が置かれている。文法項目は必要最低限のものに絞られており、時制については直説法現在、現在完了および点過去にとどめている。そのほかにも次のような独自の工夫が施されている。

- ・ 例文や問題文には色文字で訳語が付され、赤シートで訳語のみを隠して学習することができる。
- ・ 辞書をもっていない生徒のため巻末語彙集を付録する。
- ・ 語彙や表現には一般的な日常語のほか、格別に高校生に関わるものも使用されている（例えば、lengua japonesa contemporánea「現代文」等の科目名、delegado/a

⁴ 例えば、大学生向けの標準的なテキストならば、ser, estar に続いて直説法現在の規則活用、不規則活用という配置になろうが、このテキストでは ir, venir が規則活用より前に導入される。

de la clase「学級委員」、este trimestre「今学期(3 学期制の場合)」、Tengo dieciséis años.「私は 16 歳です」)。

- ・ 動詞を当てるジェスチャーゲーム等のアクティビティ。

さて、既刊の大学生向けテキストのなかにも高校生クラスに採用可能とみられる、または、現に採用されている入門・初級テキストがあるので、以下に列挙したい。

『総合スペイン語コース Entre amigos 1』

文法とコミュニケーションをバランスよく学べる入門テキストである。各課の最終ページには挿絵と写真の豊富な文化情報が掲載されており、和書でありながら洋書の長所を採り入れている。直説法現在を中心に構成されているので、活用学習の負担が少なく、コミュニケーション演習に多くの時間を割り当てられる。

『スペイン語とわたし El español y yo』

スポーツ、食事、旅行などの様々なテーマについてスペイン語圏と日本の 2 つの文化を扱うユニークな入門テキストである。コミュニケーションを重視した内容であり、コントロールされたアクティビティと自由なアクティビティを備える。文法は全 10 課、発音から直説法現在完了まで扱う。文法解説が巻末にまとめられているのも特徴である。スペイン人デザイナーによるイラストとレイアウトが楽しく、洋書の雰囲気味わえる。

『アクション!』

日々のコミュニケーションに必要な語彙と文法を日常生活場面ないし意味分野ごとに着実に学べる初級テキストである。各課は、語彙、文法解説、文法練習、アクティビティで構成され、厳選された語彙と表現を一連の構成のなかで反復練習する。「映画でスペイン語」等のコラムを通じてスペイン語圏の社会・文化にも触れられる。全 15 課で接続法現在までを網羅するので、第二外国語クラスにおいて初級スペイン語を体系的かつ実用的に学ばせるのに適している。

『スペイン語の世界へようこそ 1』

発音から直説法現在不規則活用までを丹念に学べる入門テキストである。質量ともに一年をかけて消化するのに丁度良い。数年をかけて初級文法の完成を目指すカリキュラムであるならば、シリーズ本の『スペイン語の世界へようこそ 2』が接続法現在までカバーするので、2 年目以降のクラスにこれを使用してもよい。

例文には和訳が付く。薄めの文字で記されているので、スペイン語文を読むときの妨げにならない。さらに、学習者が集中して解説を聴くことができるよう、一部の単語の訳を訳文内の括弧に埋めて訳文を完成させるといった工夫も施されている。

その他、各課に掲載される文化コラムを通じてスペイン語圏の事情に触れることができる。「ミニ会話」は実用的な内容で、入門者には覚えやすい量である。巻末に語彙集が付く。

『イラストで楽しもう、スペイン語』

直説法現在を中心としたコミュニケーション重視の入門テキストである。書名のとおりにイラストを多用しているので、会話場面をイメージしながら学習することができる。とくにリスニング問題が充実している。到達度を学習者自身がチェックできる自己評価表は、他のスペイン語テキストにはみられない特徴である。

『スペイン料理はいかが』

難解な文法用語の使用を極力抑え、図・イラストを通じて自然にスペイン語に親しむことのできる入門テキストである。コラムでは、「言語と文化は切り離して考えられない」というコンセプトの下、美しい写真と平明な解説により食を中心にスペイン文化を広範に紹介する。文法項目の負担が軽いので、言語と文化を半々に学ぶクラスに向くであろう。

『バレンシアの休日』

現地で収録された日常会話の付録 DVD が特徴である。この DVD 教材は、授業の副教材としてのみならず、自宅学習にも役立つ。文法は、発音から動詞 *gustar* までを学ぶ。

文化コンテンツ付きのスペイン語教材はまだ希少であり、その開発はスペイン

語教育における喫緊の課題といえるが、最近刊行された教材のなかでは『世界遺産で学ぶスペイン語』が充実している。

『プラサ・アミーゴス I』

本書は、集中講義等の限られた授業時間内においてスペイン語の発音に親しみ、必要最低限の基本動詞（ser, estar, hay, -ar / -er / -ir 規則動詞, querer, poder, hacer, tener, ir, venir, dar, saber）を駆使してスペイン語のコミュニケーションを楽しむことを念頭に置いて作成された入門テキストである。

本テキストは、インターネットでダウンロードすることのできる無料のエデュケーションアプリと連動している。利用者は、スマートフォンを用いて通学途中や休み時間などにゲーム感覚でスペイン語の語彙と動詞活用を学習することができる。



図2 『プラサ・アミーゴス I』アプリ画面例

『プラサ・マヨール I 改訂ソフト版』

本テキストは、専攻外国語・第二外国語の別を問わず多くの大学において採用されてきた総合テキスト『プラサ・マヨール I』をベースに、練習問題の量を軽減するなどして第二外国語クラス向けに使いやすく再編した姉妹本である。

筆者は、神田外語大学メディア教育センターの協力の下、本テキストの文法解

説ビデオクリップを製作した。文法項目ごとに区分けされた 5～15 分程度のビデオクリップである。学生はインターネット環境にアクセスすれば、タブレット端末を用いていつでもどこでも視聴し、個々のペースで予習・復習をすることができる⁵。

さらにこのビデオクリップは、「反転授業⁶」にも活用することができる。授業前の課題としてあらかじめ生徒にこれを視聴させておき、授業中は講師による文法解説よりも、実践的な演習に多くの時間と労力を割り当てることで、生徒にスペイン語の運用力をつけさせることができる。



図3 『プラサ・マヨールⅠ 改訂ソフト版』文法ビデオクリップ画面例

このような ICT を援用したデジタルコンテンツは、限られた授業時間数のなかで第二外国語としてスペイン語を学ぶ高校生にこそ効果を発揮するであろう。

⁵ 現在は学内の KUIS MOODLE 上での視聴にアクセスを制限しているが、今後は学外にも公開したいと考えている。

⁶ 反転授業とは、授業と課題の役割を「反転」させる授業形態である。学習者は、授業時間外にデジタル教材等を通じて知識を学習しておき、授業時間内において当該知識の確認や問題解決学習等に取り組む。従来の授業スタイルでは、学習者は授業時間内に集団で講師による文法解説を聴く。ある程度の演習は行うものの、言語の運用力を身につけるには時間的に不十分であって、実際の運用力、とりわけ会話力の習得は結局のところ学習者個人の自主的な努力に委ねるところが大きい。他方、反転授業では、文法解説はビデオ教材等を通じて個々に受け得るものとして、授業時間は集団で学ぶことの利点を活かし、能う限り会話等の演習に充当したほうがよいと考える。

3.2 言語と文化をともに学ぶ複合型教材

前節に掲げた既刊テキストは、基本的にスペイン語クラスにおいて文法や会話を学ぶための語学教材である。科目横断的に「国際理解」を目指す総合学習クラスや、「言語＋文化」学習により構成される外国語クラスには、スペイン語と文化コンテンツを組み合わせた複合型教材が求められる。

筆者が神田外語大学において担当している「スペイン語科教育法」では、そのようなコンセプトに基づき、学習指導要領およびヨーロッパ言語共通参照枠 CEFR⁷等を参照しつつ、授業計画および複合型教材の研究開発に取り組んでいる。

各単元は、(i) 文化紹介、(ii) スペイン語学習、(iii) 文化アクティビティの3部で構成される（総合学習ならばiiを扱わない）。一例として、スペインの名物料理「ガスパチョ」と動詞命令形に関する授業計画案の概要を提示したい。

(i) 文化紹介

スペインの地理に触れながら、冷製スープ「ガスパチョ」の食される背景およびスペインの食生活を紹介する（または生徒に調べさせる）。ここで食材や料理に関連する語彙を導入し、あらかじめスペイン語の音声に親しませておく。

- ・ スペイン南部アンダルシア地方で夏に飲まれるスープ。
- ・ スペイン南部は地中海性気候。一年を通じて温暖、乾燥。
- ・ 夏は、連日 40 度を超える苛酷な暑さ。
- ・ ガスパチョは猛暑により食欲の落ちる夏バテ対策。

- ・ スペイン人は一日に 5 回の食事をとる：
 - 朝食 *desayuno* (7～8 時)：ホットチョコレート *chocolate*, チュロス

⁷ 『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』では、「外国語学習の特性を踏まえて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」を一体的に育成し、小・中・高等学校で一貫した目標を実現するため、そこに至る段階を示すものとして、国際的な基準である CEFR などを参考に、段階的に領域別の目標を設定する」（194 頁）と述べられている。多くの文法項目を共有するヨーロッパ語族系の母語話者のために設定された CEFR を語族の異なる日本語の母語話者に対してそのまま適用することには様々な問題があるが、伝統的な文法シラバスの長所を取り入れながら動詞活用等の導入段階を日本語話者向けに適宜調整するなどにより、学習状況の評価方法や指導方法の整備された CEFR の利点を活かせるであろう。

churros

- 軽食 once (11 時) : サンドイッチ bocadillo
- 昼食 comida (14～15 時) : 前菜 primer plato ガスパチョ gazpacho, パエリャ paella; 主菜 segundo plato 肉 carne, 魚 pescado; デザート postre プリン flan; 飲み物 bebidas ワイン vino, 水 agua, コーヒー café
- おやつ merienda (18～19 時) : ビスケット galleta, 小型パン bollo
- 夕食 cena (21 時～) : サラダ ensalada, パン pan, オムレツ tortilla, タパス tapas。

(ii) スペイン語学習

「ガスパチョ」のレシピを通じて食材の語彙および動詞の命令形（二人称単数）を導入する。

Ingredientes (para 4 personas, 1 litro):

- 1 kilo de tomates bien maduros
- 1 pimiento verde (60 gramos)
- 1 trozo de pepino (de cuatro dedos de ancho)
- 1 trozo de cebolla (100 gramos)
- 1 rebanada de pan (50 gramos)
- 1 diente de ajo
- 3 cucharadas de aceite de oliva
- 3 cucharadas de vinagre de vino blanco
- 1 cuchara pequeña de sal

Receta:

- 1) Lava bien las verduras.
- 2) Pela los tomates, el pepino y la cebolla.
- 3) Corta los tomates, el pepino, la cebolla y los pimientos en trozos.

- 4) Mételos en la batidora.
- 5) Pela el diente de ajo y ponlo con el resto de las verduras.
- 6) Añade la sal, el aceite, el vinagre y el pan.
- 7) Dale a la batidora cinco segundos y prueba.
- 8) Deja enfriar en la nevera durante una hora.

調理の様子を描写する画像や映像をみながらレシピを読めば、スペイン語文を理解しやすくなる。レシピに書かれている事項を生徒が概ね理解したら、命令形の活用と用法を解説し、練習問題に取り組ませる。

命令形には不規則形もあるが、この単位では、直説法現在の規則活用を終えていれば容易に理解・運用することのできる動詞を中心に構成した。ここでは語根母音変化動詞 **probar** を扱わなくてもよいが、入門者にとって最初の難所ともいえる直説法現在不規則活用に進む前の謂わば予行練習として命令形に触れながら、語根母音変化の音感を養っておくのも有益である。

命令形は、伝統的な文法シラバスにしたがい直説法現在形を終了した後に導入したほうが体系的な理解につながり、確実な学習効果を期待することもできようが、二人称単数形は母語としてスペイン語を獲得する幼児が親に対して自分の欲求を伝えるため最初に覚える活用の一つであり、日常会話に頻出し、なおかつ、CEFRにおいても A1 レベルから導入されることから、コミュニケーション能力の育成に重きを置く高等学校のスペイン語クラスでは初年次から積極的に導入してよいと判断する。

(iii) 文化アクティビティ

スペイン語学習で紹介されたレシピにしたがい、実際に「ガスパチョ」を試作・試食する。第二外国語としてのスペイン語クラスであれば、(ii) で学習したレシピを復唱しながら調理をすると、実際の行動と言語知識とが具体的に結びつく。試食のときに DVD 等で世界遺産の映像を鑑賞すれば、スペインをより身近に感じることができる。

このアクティビティは、ミキサーと果物ナイフがあればよく、調理法が簡単で、火を使わないため、調理室でなくとも一般の教室において手軽に実践することができる。ガスパチョを冷やすための冷蔵庫がない場合、氷を入れてミキサーにかけられ

ば適度に冷える。ークラスの生徒数が多い場合には、トマト等の主材料を各自 1 個ずつ持参させてもよい。

本節では「ガスパチョと命令形」に関する授業計画案の概略を提示したが、別の案としては、南米のアルゼンチンやパラグアイなどで飲用される「マテ茶」を紹介するのも面白い。ラプラタ地方の地理、先住民グアラニー族の歴史や、マテ茶の生育環境、成分、効用、肉食文化との関わり、独特の茶器と飲み方などについて総合的に学び、それらとスペイン語学習を連動させる⁸。

上記のほかにも、「アメリカ先住民の伝統衣装と色彩語」、「祭りと暦」、「スペイン人の日課と再帰動詞」、「都市景観と存在動詞 hay」等々、イベロアメリカ社会の多様な文化・地理・歴史に触れながら入門スペイン語を学ぶ授業プランとその複合型教材が考えられる⁹。

結び

近年わが国の高等学校においてスペイン語学習者は増加傾向にあるものの、外国語科目は未だ英語科がほぼ独占状態にあり、スペイン語を含めた多言語教育の普及は国際的にみて相当遅れをとっている。言語を含めた文化的多様性の尊重は、基本的人権の一つとして国際社会において最も重要な規範を構成する。国際人権規約の批准国であり、「ユネスコ文化的多様性に関する世界宣言」に賛成したわが国の政府には、初等・中等教育において多言語教育を拡充する責務がある。

高校生向けのスペイン語テキストは、学習指導要領に準拠し、コミュニケーション能力の育成を重視した構成となる。テキストにおいて扱うべき文法事項は、授業時間が限られているならば、日常会話に最低限必要な直説法現在形と命令形にとど

⁸ 地域によっては、日本で働いている日系のアルゼンチン人やパラグアイ人を授業に招待することもできよう。国際交流を通じ、多文化共生について生徒に考えさせる絶好の機会となる。

⁹ このような「言語＋文化」という視点は、ややもすると無機質な文法学習に陥りやすい大学の第二外国語科目のカリキュラムにも積極的に取り入れられるべきである。従来、第二外国語科目の目的としては、外国の先進的知識の獲得や国際ビジネスパーソンの育成などがしばしば掲げられてきたが、けだし、第二外国語科目の究極的な目標は、文化的多様性の尊重および世界平和という国際規範の実現を目指すことにある。数多の大学において第二外国語科目の単位数が削減されている危機的状況を前にして、高等学校の国際理解・語学教育と連動・連携するかたちで旧来のカリキュラムを見直す必要はなかろうか。

めたい。併せて、各単元と連動するかたちで、科目横断的な国際理解教育に役立つ文化コンテンツを付録する。スペイン語の母語話者および文化と直に接する機会に恵まれない高校生にとって、ICT を利用した補助教材は効果的である。

本稿では、第二外国語科目としてのスペイン語教育にとどまらず、総合的な学習の時間における国際理解教育にまで射程を拡げ、「言語＋文化」を学ぶ授業計画案および複合型教材の概要を提示した。まだ課題が山積みであるが、今後とも高校生向けスペイン語テキストの研究開発に努めていきたい。

<参考文献・ウェブサイト>

アスティゲタ、ベルナルド、「中高等学校におけるスペイン語教授法：－現状と問題点、改善のための情報と提言－」『神奈川県立国際言語文化アカデミア紀要(1)』85-99 頁、2012 年

大阪府立泉北高等学校（2017 年 11 月 25 日閲覧）

<http://www.osaka-c.ed.jp/semboku/departement/foreignlanguage/index.html>

慶應義塾志木高等学校（2017 年 11 月 25 日閲覧）

<http://www.shiki.keio.ac.jp/education/23languages/>

神戸市立葦合高等学校（2017 年 11 月 25 日閲覧）

http://www2.kobe-c.ed.jp/fki-hs/index.php?action=pages_view_main&page_id=122#12

後藤雄介/石井登/浜邦彦/岩村健二郎、「高等学校におけるスペイン語教育の現状と展望」『早稲田教育評論』24 巻 1 号、45-62 頁、2010 年

寸田知恵、「高校生用スペイン語教科書作成のための一考察」『関西大学外国語教育フォーラム』13 巻、99-106 頁、2014 年

日本言語政策学会、『グローバル人材育成のための外国語教育政策に関する提言－高等学校における複数外国語必修化に向けて－』、2014 年

http://jalp.jp/wp/?page_id=1069 （2017 年 11 月 28 日閲覧）

文部科学省、『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編』（再版）、開隆堂、2013 年

文部科学省、『高校生の留学生交流・国際交流等に関する調査研究等 平成 18・20・23・25・27 年度高等学校等における国際交流等の状況について』

http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/koukousei/1323946.htm

文部科学省、中央教育審議会、『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（中教審第197号）』、2018年12月21日

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1380731.htm

文部科学省、日本ユネスコ国内委員会、『ユネスコ文化的多様性に関する世界宣言実施のための行動計画要旨』

<http://www.mext.go.jp/unesco/009/1386517.htm>

Instituto Cervantes, *EL ESPAÑOL: UNA LENGUA VIVA Informe 2017*

https://cvc.cervantes.es/lengua/espanol_lengua_viva/pdf/espanol_lengua_viva_2017.pdf

<引用テキスト>

『アクション！《改訂版》』四宮瑞枝/落合佐枝/パロマ・トレナド/ソコロ・フランコ・デ・ミサワ、白水社、2015年

『イラストで楽しもう、スペイン語』浦眞佐子/フランシスコ・パルティダ、朝日出版社、2015年

『高校生のためのスペイン語 《テキスト＋CD》』寺尾美登里/塚田真由美、同学社、2014年

『スペイン語とわたしー日本とスペイン語圏、くらべてコミュニケーション！ーEl español y yo』コンチャ・モレノ/ファン・カルロス・モジャノ/ホセファ・ビバンコス/廣康好美、朝日出版社、2013年

『スペイン語の世界へようこそ 1 改訂版』村上陽子/ナカガワ・マルガリータ/ヴィタレ・アナリア/平田和重/禪野美帆、朝日出版社、2017年

『スペイン料理はいかが』土井裕文/柿原武史/橋本和美、同学社、2007年

『世界遺産で学ぶスペイン語』福嶋教隆/フアン・ロメロ・ディアス、朝日出版社、2017年

『総合スペイン語コース初級 改訂版』スペイン語教材研究会編、朝日出版社、2013年

『バレンシアの休日』、ルールデス・ドメネック、同学社、2010年

『プラサ・アミーゴスースペイン語で話そう Iー』青砥清一/落合佐枝/ハビエル・カマチヨ・クルス/高松英樹/二宮哲/柳沼孝一郎、朝日出版社、2011年

『プラサ・マヨールⅠ 改訂ソフト版』 青砥清一/パロマ・トレナド/高松英樹 /二宮哲/柳
沼孝一郎/松井健吾/ハビエル・カマチョ・クルス/シルビア・リディア・ゴンサレ
ス/グレゴリ・サンブラノ、朝日出版社、2014 年